

2010 年度「未成年者飲酒予防基金」活動報告

JKYB 関東支部 飲酒防止教育研究会

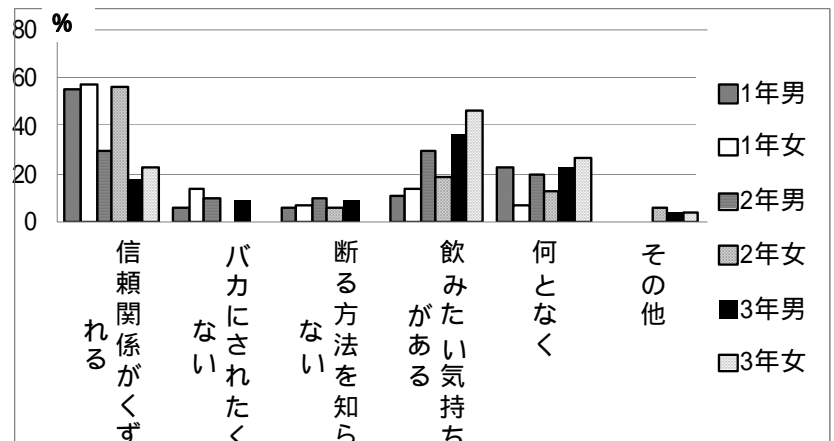
「ライフスキル教育を基盤とした未成年の飲酒防止教育のあり方」

1 質問紙調査結果

昨年度、本研究会では飲酒に関する生徒と保護者の実態を把握し、効果的な指導内容や指導方法を検討するために質問項目を検討し、調査票を作成した。本研究が委員各自が所属する学校で作成した質問紙調査を実施し、その結果について分析し、未成年飲酒防止に関する教育活動をそれぞれ企画し実施した。その中の 1 校である、埼玉県川口市立 A 中学校の取組を取り上げてここに報告する。

A 中学校では、1 年生男子 150 名、1 年生女子 111 名、2 年生男子 121 名、2 年生女子 107 名、3 年生男子 129 名、3 年生女子 132 名の計 750 名の生徒を対象に調査した。その結果、どの学年においても性別に関係なく、30～40%の生徒に飲酒経験があることがわかった。飲酒経験のない生徒を対象に、飲酒を「家族や親戚にすすめられた場合」と「先輩や友だちにすすめられた場合」について質問をしたところ、約 10%の生徒が「断る自信がない、あるいは断れない」と回答していた。

特に、先輩や友だちからの誘いを「断る自信がない、あるいは断れない」と回答していた生徒に対してその理由をたずねる（下グラフ）と、酒に対する好奇心や憧れと共に、「信頼関係がくずれる」という回答が最も多く、さらに、「断る方法を知らない」と答える生徒もいた。この結果を踏まえて、コミュニケーションの方法に関する学習や、実際に断る練習をするロールプレイングを用いた指導法が効果的と考え薬物乱用防止教室を企画、運営することとした。



2 新たな教材の作成

飲酒に対する興味や関心が高まるのは、思春期の生徒にとっては当然のことではあるが、飲酒の害についての正確な知識がない上に、メディアや周囲の人々からいたずらに好奇心をあおられている場合も少なくない。さらに、飲酒を誘われる場面に実際に遭遇したときには、正確な知識は断る手段として大いに活用することができる。また、人間関係を壊さずに自分の意見を相手に伝えるには、その方法を知ることが大変重要である。

そこで、限られた時間の中で全校生徒を対象に指導者側が意図する知識や情報を、効率よく伝えるためには視覚的に訴える方法は大変有効であると考え、スライドを用いたオリジナルの教材(報告書【詳細】に一部掲載)を作成することとした。

これらを作成することにより、大勢の生徒を対象とした一斉指導が可能になった。また、指導内容が明確になり、保健体育の教員や養護教諭といった専門の職員だけでなく、様々な職員がこのスライドを活用して指導することも可能になった。

3 薬物乱用防止教室の実施

埼玉県川口市A中学校では、飲酒、喫煙、薬物乱用の害に関する知識の習得と、飲酒を断るロールプレイングの演習の2部構成で薬物乱用防止教室を実施した。

第1部では、作成したスライドを活用しながら、飲酒、喫煙、薬物乱用によって起こる「体・心・周囲」への悪影響等について養護教諭が講話した。今回の講話で生徒たちには是非指導したい知識や情報を適切にスライドで示しながら、伝えることができたので、生徒たちも真剣に話を聞くことができた。

第2部では、ロールプレイングの演習を行った。この演習を行うために、事前に保健委員の生徒が、代表生徒を選出したり、台本を練り直したり、演技について話し合ったりといった活動を積み重ねた。また、実際に代表の保健委員がステージ上でロールプレイングを行う際には、生徒指導委員会の職員に誘い役をお願いし、学校全体で薬物乱用防止教室を行うことができた。



親戚のおじさんに酒を誘われてしまったA君...
おじさん：大きくなったな。もう中学生か～。大人に近づいたんだから、少し酒でも飲んでみる！
A君：いや、飲みません！
また、7年後誘ってください！

4 実践の成果

既存の教材は、飲酒、喫煙、薬物乱用それぞれが体に与える悪影響という内容がほとんどである。体への影響だけでなく、心やその後の人生、周囲の人々にも大きく影響することを伝えたかったので、それらの内容を含んだオリジナルの教材を作成した。さらに、質問紙調査の結果から、コミュニケーション力の向上や、悪い誘いを断る方法の習得は必須であると考えロールプレイングの演習を行った。生徒の感想からも、「人間関係がくずれることがこわかったり、具体的にどう断ったらいいのかわからなかったり不安が大きかったけれど、薬物乱用防止教室を通して、きちんと断らなくてはいけないし、断る方法もよく分かった」という感想が聞かれた。生徒それぞれが、自分の問題として捉え、誘われたときにどのように断るのか、自分なりの方法を見つけ出すきっかけとなった。

5 今後の課題

今回の取組によって、生徒は飲酒、喫煙、薬物乱用に関する様々な知識や情報を習得し、誘いを断る方法についても自分自身の方法を考えることができた。ただ、時間の経過とともに学んだことを忘れてしまったり、また新たな情報が発信されたりする。ロールプレイングも一度だけでなく、繰り返し行うことにより強化され、より良い方法を習得し、とっさの判断が付きやすくなる。今後も、継続してこれらの取組を行っていかうと考えている。

さらに、今回の質問紙調査結果からは、未成年飲酒について周囲の大人が寛容であること

も明らかになった。今までの実践を継続しながら、今後は保護者の啓発活動に重点的を置いて活動していきたいと考えている。